

旧三井銀行小樽支店

三井銀行小樽支店は1927年に建設され、2002年まで営業していました。この建物は改修され、2016年に博物館として再開しました。かつては一般公開されていなかった銀行は、今では立ち入り可能で、オーブンプランの銀行ホールでの展示で色内銀行街の発展を辿っています。

この建物は、14世紀から15世紀のイタリアの豪華な商家にインスピレーションを得たイタリアルネサンスリバイバル様式で、曽禰達蔵（1853年-1937年）によって1927年に設計されました。曽禰は1923年の関東大震災の教訓を踏まえ、鉄骨鉄筋コンクリート造りの建物を設計しました。外観は堅い石に似せた御影石の層に覆われ、ギリシャ・ローマのモチーフで装飾されています。この建物は、この街にある25銀行のうちの1つであった20世紀初頭には、小樽の金融力の象徴でした。

富とイノベーション

銀行ホールの上にはオフィスと重要な顧客のための3つの応接室がありました。応接室の一つは1927年当時のままで、装飾的な壁紙、ベルベットのカーテン、ベルベット張りのソファが置かれています。棚にあるガラス瓶にはニシンを原料とした肥料、豆、亜麻など、かつて小樽で取引されていた商品のサンプルが展示されています。このサンプルは1940年代のもです。

地下にはアーチ天井の貸金庫室があります。夏に冷たい地下室の壁に生じる結露を排出する水路を備えたタイル張りの回廊に囲まれています。

進化する小樽の金融街

三井銀行は1880年新設の開運町駅（後の南小樽駅）近くに小樽支店を開設しました。市の南部にあたるこの地区は1881年の火災で銀行や駅を含むほとんどの建物が焼失するまで商業の中心地でした。ほとんどの企業はさらに北の港近くに移転しました。1887年以降、新しい商業中心地に近い色内地区に銀行や商社が設立されました。三井銀行が1898年に色内通りに移転した時点では、この地域にあった10の銀行のうちの1つでした。1926年には小樽に25の銀行がありました。

着物貿易から銀行の中心地へ

三井銀行は1876年に日本初の民間銀行として東京に設立されました。三井家は1673年に着物の取り扱いを始め、その後両替商を始めました。三井銀行は1882年に日本銀行が設立されるまで北海道開発のための政府資金を扱っていました。20世紀後半に三井銀行は他のいくつかの銀行と合併し、現在は三井住友銀行として運営されています。三井銀行小樽支店は国の重要文化財であり、5つの歴史的建造物が博物館や画廊として一般公開されている小樽芸術村の一部となっています。